

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道201号 <small>いづかしょうないたがわ</small> 飯塚庄内田川バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局	
起終点 自：福岡県飯塚市弁分 <small>いづかしべんぶん</small> 至：福岡県田川市大字弓削田 <small>たがわしおおあぎゆげた</small>	延長 9.7km		
事業概要 飯塚庄内田川バイパスは、国道201号の交通混雑の緩和、烏尾峠における通行規制区間の解消等を目的とした事業である。			
S56年度事業化	S44年度都市計画決定 (H一年度変更)	H元年度用地着手 H3年度工事着手	
全体事業費	約686億円	事業進捗率 92% 供用済延長 9.7km (2/4) 3.6km (4/4)	
計画交通量 35,100～44,200台/日			
費用対効果分析結果 B/C (事業全体) 2.2 (残事業) 4.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 43/953億円 事業費：32/885億円 維持管理費：11/68億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 172/2,094億円 走行時間短縮便益：143/1,661億円 走行経費減少便益：26/349億円 交通事故減少便益：2.1/84億円	基準年 平成26年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=2.1～2.3（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.2～2.2（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.2～2.2（事業期間±20%）			
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・並行する国道201号現道の交通混雑緩和及び旅行速度の向上 ②産業振興の支援 ・「北部九州自動車産業アジア先進拠点推進構想」に貢献し、地域経済の活性化を支援 ・観光地までの移動が円滑になり、来訪者の利便性が向上 ③医療施設までのアクセス改善 ・第三次救急医療施設（飯塚病院）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ④生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）			
関係する地方公共団体等の意見 飯塚市をはじめとする8市20町1村で構成される①筑豊横断道路建設促進期成会（会長：行橋市長）や田川市をはじめとする1市6町1村で構成される②田川地域国道整備促進期成会（会長：大任町長）等により早期整備の要望を受けている。（①平成26年8月、②平成26年8月）			
県の意見 一般国道201号は、福岡市から筑豊地域を東西に横断し、京都郡苅田町に至る広域的な幹線道路であり、福岡県北部地域の交流・物流の一翼を担う重要な道路である。 飯塚庄内田川バイパスの整備は、筑豊地域と他地域との交流促進や産業支援の効果が大きいと見られ、今後も必要な区間の供用を図りながら、計画のとおり事業を継続すべきと考える。			
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。			

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は減少傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は福岡県及び九州全体よりも多い。国道201号（バイパス・現道）の交通量は増加傾向。

事業の進捗状況、残事業の内容等

昭和56年度に事業化、用地進捗率99%、事業進捗率92%（平成26年3月末時点）

平成20年度：バイパス入口交差点～見立入口交差点間 延長9.7km（2/4）全線開通

平成21～25年度：バイパス入口交差点～下三緒交差点間 延長3.6km（4/4）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

平成26年度：下三緒交差点～庄内工業団地交差点間 延長1.4km（4/4）開通予定

平成28年度：庄内工業団地交差点～県道415号口ノ原稲築線間 延長1.2km（4/4）開通予定

施設の構造や工法の変更等

- ・ 筑豊烏尾トンネル工事費の見直し 【約 26億円増】
- ・ 筑豊烏尾トンネル掘削に対する水涸れ対策 【約 5億円増】
- ・ 上部工架設の工法変更 【約0.4億円減】

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。